

●コメント

■高谷議長と金議長「みんなが協力してくれ、うまく進められ、いい議論ができました」  
 ■最初に質問に立った藤岡議員「緊張しましたが、うまく質問できました。答弁を聞き、ボランティア活動に参加してみたいと思いました」  
 ■平松議員「予想していたより分かりやすい答弁でした」  
 ■小坂議員「子ども議会宣言の多文化共生を、今以上に実践していきたいと思います」  
 ■傍聴した岡山県立大学の学生「よく調べて、鋭い質問をしたことに感心しました」  
 ■傍聴した森山博美さん(久代地区市政モニター)「この体験が糧になり、将来の総社市を力強く引っ張っていく力になると期待します」

人口を増やす施策を



遠藤 正隆さん (総社中学校2年)

総社市は、次の世代を担う子どもが少ないので、そうじゃ吉備路マラソンのような大きい行事や、観光名所を作り、「総社っていいな」「総社に行きたいな」とだれもが思うようなまちづくりを行い、人口を増やすべきではないでしょうか。例えば、文化遺産の発掘体験や見学会の実施、宝福寺や備中国分寺、鬼ノ城の積極的なPR、音楽の盛んなまちづくりに取り組むのではどうでしょうか。

市長 総社の人口は微増の傾向です。観光客を増やそうと総社観光プロジェクトを立ち上げました。今、総社の良さを生かした形で全国発信する具体策の協議に入っています。総社の良さをどんどんPRしていこうと考えます。音楽については、音楽のあふれるまちを積極的に作っていききたいと思えます。

教育長 先人の残した貴重な文化財を保護したり活用したりすることは重要なことと考えています。貴重なものが出土したときには、多くの人に見てもらふことにも努めています。また、郷土のことを知る機会も増やしていきたいと考えています。

ポイ捨て防止に花を



中島 麻里さん (総社東中学校3年)

大きな道路の横に花などを植えると、まちが明るくなると思いますがどうでしょうか。ごみのポイ捨て防止にもつながるのではないのでしょうか。

市長 まちを明るくしていかないとダメですね。ポイ捨て防止もしなければなりません。人を引き付け、心を和ませられる花の力はすごいと感じます。ご提案のように、市民と一体となって花のあふれるまちにしたいと思えます。そのことはポイ捨て防止につながると考えます。

任意の予防接種へ補助を



大西 紀衣さん (総社西中学校2年)

予防接種は、子どもたちを病気から守るために大切なことです。なかでも流行が心配されるインフルエンザなどに備えて行う任意の予防接種の費用に対する補助はできませんか。

市長 インフルエンザなどの任意の予防接種の代金は高いです。ご指摘の予防接種の助成については現在、総社市が予防接種代金のいくらかを負担することについて検討しています。

ごみ減量ボランティアを



井田 章太さん (昭和中学校3年)

通学路で、空き缶やペットボトル、たばこの吸い殻などのごみを多く見掛けます。そこで、ごみを減らすボランティア活動や啓発ポスターの作製、学校での呼び掛けなどを、地域ごとに行うことはできませんか。

市長 環境に対する考え方を変えていくことは大切です。ごみを減らす活動がいろいろな地域で起こっていくよう、ご提案のボランティア活動、啓発ポス

教育現場での食育は



武川 千晶さん (総社西中学校2年)

食育のアンケートをしてみたところ、言葉を知らない人が多く、言葉を知っていても具体的なことを知らない人が多いという結果ができました。教育現場でどのように食育を進めていますか。

教育長 食育という言葉を使っただけでは指導が限られますが、各学校に食育の指導計画があり、給食の時間や家庭科、総合的な学習の時間などのなかで食育を進めています。学校給食共同調理場の栄養教諭が学校を訪ね、給食の実情を見たり食

の指導をしたりしています。

防犯灯の設置を



高谷 知宏さん (総社東中学校3年)

不審者情報をよく聞きます。部活動や塾で帰りが遅くなっても、安心して帰宅できるよう、中心部のように周辺地域の街灯の整備計画を考えていますか。

市長 市内でも不審者情報が多くなりました。安心・安全を子どもたちに提供することは市の役割です。防犯灯の設置は、費用のほぼ全額を、設置する町内会や自治会に補助して進めていきます。周辺地域への設置にも鋭意協力していきます。

「子ども議会宣言」を採択

一般質問終了後、人と人の交流や多文化共生などからなる「総社市子ども議会宣言」を、子ども議員全員を代表して小坂アリサさん(総社中学校2年)が登壇して提案。原案どおり全会一致で採択しました。

総社市子ども議会宣言

私たち子ども議員は、生まれ育ったこの総社のまちを愛し、総社市の子どもの代表として次のことを宣言し、各学校や地域で、この精神にもとづいた活動に取り組みます。

- 1 友だちとはもちろん、地域の人たちともあいさつを交わし、人と人とのつながりを大切にしながら信頼の輪を広げ、明るいまちをつくらせていきます。
- 2 伝統的なお祭りや行事に参加して、総社の文化や歴史をもっと知り、まちが活性化していくように、まちの良さやすばらしさを多くの人に伝えていきます。
- 3 外国人が多数住むこのまちで、さまざまな国の人たちとの交流を深め、互いの文化を知り、学び、助け合って、安心して楽しく暮らせるまちをつくらせていきます。

ター、呼び掛けを基に前向きに検討していきたいと思えます。今年11月9日には、アルピニストの野口健さんの環境学校を計画しています。

ブラジル人学校との交流



小坂 アリサさん (総社中学校2年)

私はブラジルで生まれ、総社で育ちました。ブラジル人学校の工

スコーラ・モモタロウ・オカヤマは、日本語が自由に話せない人たちにとって必要な学校です。市では、この学校とどのような交流を考えていますか。

市長 多文化共生とは、外国籍の人を市民と同等に迎え入れるものと考えています。外国籍の人への就学援助や生活支援、各地区のコミュニティへの参画で多文化共生を進めます。エスコーラの子どもたちとは、手紙交換や日本語とポルトガル語をいっしょに学ぶ機会など、さまざまなことを行い交流を深めていきたいと考えています。